

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつも一緒だよ。ずっとそばにいるの楽しいよ」の理念を職員全員のモットーにいつも少しでもより添うよう努めています。	地域の中で「いつも一緒だよ。ずっとそばにいるの楽しいよ」の理念をリビングの見やすい場所に掲げ、理念を共有して実践につなげられています	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域内を散歩するなど交流を持つと共に夏祭りには地域住民も多数参加していただき模擬店のサービス、盆踊り等多くに交流を深めました。	ホームの行事に地域の方が参加されたり、地域の草むしりに職員が参加されています。又、月に一度ボランティアの方が歌を歌いに来たり、踊りを披露されたりと積極的に地域との繋がりを大切にされています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族様はしょっちゅう利用者様のお部屋でお泊りをしたり、食事を共にするなど、施設に溶け込んでいる方が何人もいらっしゃる、いろんな家族が職員同様に接してくれ職員の手助けをし、支援してくれています。又、地域の方も野菜など届けてくれたり、見学してくれたりしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議では毎回近況報告、事故報告、取り組み等についての理解をいただいていると共に利用者の方に対する暖かいアドバイスも沢山いただき、又、イベント（夏祭り、クリスマス会等）では委員様がDVDの編集をしてくれみんな何回も楽しんでいます。	二か月に一回開催されており、九度山町の福祉課長、地域包括、地域代表、老人会代表、家族、利用者が参加されています。利用者の状況報告、事故報告など話され、そこでの意見をサービスの向上に活かされています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議で、又、役所に出かけアドバイスを受けると共に担当者も自から足を運んで現状をみてくれます。	運営推進会議以外に、役所に出向き相談されたり、担当者の方が来園され、見に来てくれたりと、協力関係を大切にされています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止には全員で取り組み勉強会でも常に確認しあっている。玄関は不審者対策もあり自動ドアナンバー式になっているが、ベランダの入口は常に開放している。	玄関は不審者対策の為施錠されていますが、ベランダの入り口は常に解放され自由に入出入りが出来るようになっていました。又、園内研修で身体拘束について勉強会もされています。	玄関の施錠については職員の配置状況などがありますが、少しずつ鍵をかけない時間帯が増えるような取組みがされることを期待します。又、身体拘束についてのマニュアルの作成も検討をされているので、今後の取組みに期待します。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で虐待についての研修を行うと共に、その理解を深め防止に努め、常にチェックを行っている。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護制度についても、研修等でもしっかりと理解し利用者家族様からの相談に応じられるよう取り組んでいる。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約の際には、説明の上納得してもらい契約している。改訂事項等ができた場合もその都度説明の上署名を頂いている。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、ケアプラン説明時、利用料金徴収時等、全家族の要望や意見を確認し、できるだけ要望に応じています。又、利用者代表には推進会議で運営についての意見を述べてもらっています。	面会時に職員が積極的に話しかけ何でも言ってもらえる関係作りに努めています。又、園内行事などにも家族の方が積極的に参加されています。	現在は家族会を行われていないが、今後、行事も兼ねた家族会を考えておられるので、実践できるように期待します。
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	職員会議、ミーティング以外にも常に意見や提案が行えるオープンな環境にある。	毎日のミーティングや、日頃の会話の中で運営に関する意見や提案を聞くように心がけておられます。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は常に職場に目を通し、就業環境の整備に努め、職員の勤務状況も把握し、やりがいがある職場環境に努めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修や外部研修への参加で、資格取得等個々のスキルアップを図る為、努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域の同業者の研修に参加したり、研修に来てもらったりして交流を深めている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の生活ベースを知るため、声掛けを重ね、少しでも早く慣れてもらえる環境作りを心掛けている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様に何でも話してもらえる親しみやすい雰囲気作りを心掛け、なるべく要望にも応えられるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時のサマリー・フェースシート等で状況を確認し、ご家族様の要望に沿った支援を心掛けている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お家であるという感覚で常に助けあい、共に過ごし、その方の立場に立った支援をみんなで心掛けている。	
19		○本人と共に過ごし支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日面会に来てくれる家族様、週に何回かは来てくれる家族様、他の家族様にもホームに気安く来てもらえるよう努めている。	
20	8	○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	面会は自由に来て頂き、地域の方、家族様、お友達、共々談話室で長時間過ごしてもらったりしています。	知人の方が来園されたり、電話などしています。又、家族の迎えにて馴染みの理美容に行かれるなど、馴染みの人との関係をもたれています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホームでの生活を楽しんでもらうため交流する機会を多くも受け、カラオケ、ゲーム又、利用者同士もパズルを楽しんだりしています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されて退所された方には、必要に応じて面会等、経過をフォローし引き続き支援できるようにしている。	

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴、趣味などを把握し、本人・家族の望む生活スタイルや趣向を大切にしたい暮らしが継続できるようにしている。	入所時に本人や家族の希望や意向を把握されています。又、日常の会話などでも意向の確認を行っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める	本人や家族様からのアセスメント、介護支援専門員からの情報をもとに生活歴、馴染まれた暮らし方、生活環境の情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のベースを把握した上で、できる事、できない事を見極め、本人の有する能力の維持向上に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の希望を確認の上、職員と話し合い、本人のニーズに沿った介護計画を作成するよう努めている。	3ヵ月ごとに見直しをされていますが、何か変化があればその都度行っています。家族が面会に来られたときに意見を求め、現状に即した介護計画を作成されています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が連絡帳に詳細に連絡事項を記入、それぞれが出勤の都度必ず確認、判らない点は質問で確認。又、介護経過記録、その他の情報の確認で常に情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態変化に合わせて、常に柔軟に対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	恵まれた自然環境の中、穏やかに暮らしていただくと共に地域のボランティアも多に活用させてもらっている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれにかかりつけ医との連携により、通院の方は定期的に家族様が受診にお連れ下さり、大方の利用者様は隔週の往診をお願いしています。その主治医は24時間体制で緊急時に往診してくれ、常に主治医とは情報の共有を心掛けています。	以前からのかかりつけ医による月2回の往診もあり、家族の協力により受診もされています。また、連携医とも24時間の相談や往診が可能になっています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	看護職員は週1回の勤務ですが、常に相談できる体制を整えて、情報の共有に努め、パートにも准看護職の介護職員がおり適切な支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院が円滑に出来るよう、ソーシャルワーカーと定期的に連絡を取りながら、なるべく住み慣れた生活に戻れるよう取組んでおります。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者が重度化した場合等の対応に係る指針をつくり全ご家族に説明の上、了承いただいております。	入居時に重度化した場合や終末期のあり方について、事業所の方針を説明され、入居者や家族様の意向を聞き同意を得られています。また、看取りの経験はないですが、事前に話し合いを行い、今後看取りも実施していく方針です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時にはマニュアルに従い対応出来るよう初期対応訓練を行い、適切な対応ができるようしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルを作成し、避難訓練、消防訓練も消防署との連携により定期的に行っている。	マニュアルの資料が作成され、年2回消防署の協力を得て消防訓練を実施されています。また、非常災害時に備え備蓄も行っていきます。	消防訓練時に自治会や近隣住民に参加を要請したり、地域の訓練に出向く等非常災害時に備え、地域住民から協力が得られるように働きかけていくことを期待します。

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>本人のプライドとプライバシーを尊重しながら、個人情報への取扱いには、厳重に注意しています。</p>	<p>入居者の気持ちに応じた優しい言葉かけやさり気ない対応がみられ、入居者の人格を尊重されています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>本人の思いを常に考慮し、職員同士も情報を交換し、少しでも希望を叶えられるよう心掛けています。</p>	/	/
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者様優先で少しでも気持ちよく過ごしてもらえるよう、心掛けています。</p>	/	/
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>毛染めをしたい人には、希望を叶えさせてもらい、1日のメリハリをつける為、着替えや外出時にはおしゃれを楽しんでもらっています。</p>	/	/
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>野菜作りを利用者様と一緒にし、収穫した野菜をみんなで楽しみ、食べたいものの希望もお聞きしています。又、利用者様に大根おろしを頼んだり、配膳、洗い物も手伝ってもらっています。</p>	<p>入居者の方の意見を聞き、メニューに取り入れ、準備や片付けも出来る方は職員と一緒に手伝われています。一人ひとりの馴染みの茶碗や湯のみ・箸で和やかに食事をされている様子が伺えます。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>水分量の確保、栄養バランス、食事量チェックで常に本人様の状態把握、改善に努めています。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>個々に応じた口腔ケアを食後必ず行うと共に、最近オーラルピースを使っているが非常に好評です。</p>	/	/

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	昼間おむつゼロ作戦なるものを展開し寝たきりの方、座位の難しい方にもトイレでの排泄を支援しています。	入居者の排泄習慣やパターンを把握され、個別の排泄支援を行っています。また、昼間はおむつ使用を避け、トイレでの排泄を大切にされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食には全員にバナナ、ヨーグルト、牛乳を毎日摂ってもらい、自然排便に努めてますが、便秘が3日以上にならない様常にチェックして対応しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は一応午後から夕方ですが、要望があれば夜、朝も支援しています。	週2回の入浴が行われ、入居者の体調や希望に応じて曜日変更や回数を増やすことも可能です。また、基本的に午後からの入浴となっていますが、希望があれば早朝や夜間の入浴も実施されています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	高齢の方には、昼食後1～2時間のお昼寝をしてもらっています。又、動かれる人は自由に部屋とリビングを往復して休息しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	皆様の飲まれている薬は職員全員が把握していますが、服薬時には必ず二人の目を通しチェックし飲み終るのを確認するなど万全体制で事故防止に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々レクリエーション、散歩等を楽しみ、行事には家族・職員ぐるみが大いに楽しめる工夫で支援しています。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買物にでかけましょう、散歩に行きましようとして少しでも戸外に出かけ、外食もたまにはできるよう支援しています。	希望に沿って周辺に散歩に出かけたり、食材や日用品の買い物にでかけたり外出する機会があります。また、家族様の協力で外食や花見等戸外へ出かけられるよう支援されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人やご家族の希望があれば、所持することもできるよう柔軟に対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族様へ電話をしたいという利用者には希望にそって掛けさせてもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に居心地よく過ごしてもらえよう、ウッドデッキでお茶を楽しんだり、散歩したり、自然あふれた環境の中で季節感を楽しんでもらっています。	リビングや廊下は広く、共有空間にはソファが置かれ、入居者がゆったりと過ごせるように配慮されています。また、ウッドデッキがあり天気の良い日には、お茶を楽しんだりして自然豊かな環境の中で季節感を楽しめるようにされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座って、語り合ったり、リビングでは自由に居場所を作ってもらっています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室ではそれぞれ使い慣れた家具等で個々に違う雰囲気を作ってもらっています。	居室には、今まで使い慣れた物や思い出の品が持ち込まれ、落ち着くことができるよう工夫されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面バリアフリーで安全快適に暮らしてもらい、自立した生活の支援ができるよう最善を尽くしています。		



V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない